



ホームページ



X(旧Twitter)

雫石中学校 出前講座

自分で自分の命を守るために



↑ 発災後、自分たちにできること、想定される状況はどんなものか、意見を出し合う参加者たち。

参加者それぞれの異なる立場や背景、価値観などの意見が共有され、ゲームを通じ災害対応の場面で、誰もが誠実に考え対応することや、そのために災害が起こる前から考えておくことの重要性に気付く機会を提供しました。

生徒からは『人の意見に頼るだけでなく、自分で考えて行動することの大切さを学んだ』などの感想が寄せられました。

令和6年5月30日(木)、防災に関する出前講座として、雫石中学校2年生123人が『クロスロードゲーム』を体験しました。

クロスロードゲームの“クロスロード”とは、「分かれ道」のことで、災害発生時のジレンマを想定した設問に、プレイヤーが「YES」か「NO」の2者択一の選択をすることで、発災時の対応を疑似体験するゲームです。



町ボランティア活動センターでは、キャップハンディ体験、各種防災講座やレクリエーション等、学校だけでなく地域向けの出前講座を行っています。【社協の出前講座のご案内】をもとに、さまざまなプログラムを用意しています。

また、講習会の企画、要望に合わせた講師紹介などもお手伝いします。お気軽にご相談ください。



ともに彩る、しずくいし

ボランティア団体紹介 VOL.6

うぐいすの会 せいしんほけん (精神保健ボランティア)



↑ レクリエーション(ポッチャ)で交流するようす
月1回「一休さん」(憩いの場)を開催し、精神障がい
で生きづらさを抱えている方々が誰でも自由に集い、
地域での生活が楽しめるような場を設けています。

「うぐいすの会」は、精神障がい生きづらさを抱えている方々やそのご家族、関係専門職とともに、レクリエーションなどを通して精神障がいに対する理解の輪を広げる活動をしているボランティア団体です。

この団体は、平成13(2001)年2月に「精神保健ボランティア養成講座」の修了生を中心に結成され、活動は今年で24年目を迎えました。憩いの場の企画・運営や、デイケア、家族会活動への支援を行うとともに、研修会などに参加し、精神障がい者への理解を深める啓発活動に努め、町内の精神保健福祉の向上に大きく貢献しています。

【基礎データ】うぐいすの会

- ・代表者…中村 英俊 氏
- ・会員数…14名
- ・活動日時…月1回(一休さん)、随時
- ・主な活動場所…雫石町保健センター・雫石公民館 ほか

～ 自分のまちをよくするしくみ ～

ボラセンは赤い羽根がパワーの源 ♥

雫石町ボランティア活動センターでは、さまざまな事業を実施しておりますが、その運営には財源の確保が不可欠です。

現在、活動センターの主な財源は、町内の皆さまからお寄せいただいた「赤い羽根共同募金」の配分金と、「雫石町赤い羽根チャリティーショー」の収益金の一部で賄われています。

この貴重な財源をもとに、活動センターでは、ふれあいサロンの展開や小中学校でのキャップハンディ体験、被災地へのボランティアバスの運行など、住民の皆さま方に還元できるような事業を、今後も展開してまいります。



雪んこ見守り隊

シニアたいけん



ふれあいサロン



新たなカタチでスタート

例年開催しておりました「しずくいしボランティアフェスティバル」は、今年度より赤い羽根チャリティーショーと統合され、新たなカタチとして、地域福祉を盛り上げるイベントを目指していきます。

